

やちよ

あ

火災予防や防災について わかりやすく伝える女性消防団員



▲「様々な年代の団員と一緒に活動しています」と、
八千代市消防団本部付分団長の名倉さん

消防団は、全国の各市町村に設置されている組織です。消防団員は、職業を持ちながら「自らの地域は自らで守る」という精神に基づいて、消防防災活動を行っています。

現在市内では、26名の女性消防団員が活動していて、火災予防や防災などについて、親しみやすく市民に啓発する役割を担っています。活動内容の紹介と、女性の視点で見る防災についてのアドバイスを名倉分団長にお聞きしました。

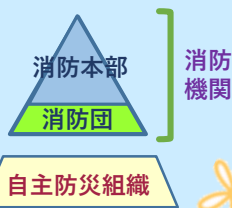
市民と地域に寄り添った 活動をしています



そうなんだー



お話をうかがった名倉道子さんは、八千代市消防団本部付分団長。市内の初代女性消防団員の一人として活躍されています。



消防団は男性がやるものだと 最初は思っていました

センター：女性消防団は、八千代市消防団本部付分団というそうですね。名倉さんは分団長でいらっしゃるんですが、いつ頃から活動されているんですか。

名倉さん：平成11年10月に国からの働きかけで、市の公募があったんです。最初は7人、翌年度6人が加わって13人でスタートしました。私は火を消すのは無理だし、最初は消防団は男性がやるものだと思っていました。でも、近所の人に「応募だけしてもらえないか」と頼まれて、出すだけならかまわないかと応募したんです。そうしたら「合格しました」と連絡が来てびっくりしました。当時は、基礎的な規律訓練のほかに、大会に出る準備として小型ポンプ操法訓練もしたんですよ。これがけっこうきっかけですね。消防出初式では放水の披露もしていました。

大切にしていることは 「できることを、できるときにやる」

センター：どのような活動をされているんですか。

名倉さん：AEDを使った応急手当指導などを行っています。市内小・中学校、希望する高校などで年40回くらい行っています。自治会の訓練などでの、救急法の講習なども行っています。また、住宅用火災報知器の普及・啓発・確認、火災予防の啓発や周知も行っています。消防署員と一緒に、各家庭を回ったりします。

センター：活動が多くて大変ではないですか。

名倉さん：大切にしているのは「できることを、で

きるときにやる」ということです。子どもがいたり仕事があったり、それぞれの事情が違いますから、長く続けるためには無理せずに出られるときに参加することが大事なんです。休んでもお互いに「すみません」と言わないことにしています。

センター：それなら気軽に参加できそうですね。

名倉さん：柔軟性を生かして、未就学児や高齢者のペースに合わせた対応なども行っています。就学前の子どもたちには、手作りの紙芝居やクイズを用意しています。高齢で耳が聞こえにくいと心配されている方でも、ゆっくり説明しますから大丈夫です。子ども連れで参加できる講習会も行っています。

センター：イベント会場で、コーナーを出されていたのを見かけたことがあります。

名倉さん：どーんと祭りや消防フェアで、救命講習会やぬりえ、消防士の衣装での写真撮影などを行っています。そんなときは、団員に自分の子どもと一緒に会場を見て回りながら、来場者への声掛けをしてもらっています。最近は、新型コロナウイルスの影響でイベントの機会が減ってしまいました。AEDの講習会や紙芝居などのネット配信ができればいいなと思っています。

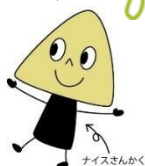
センター：親しみやすく、わかりやすそうなので、幅広い年齢層の人たちに見てもらえそうですね。



◀毎年、男性団員を対象にした、
普通救命講習会も行っています



手作りの紙芝居を
女性消防団員さんたち
がやっているんだね



ナイスさんかく

「ありがとう」と喜んでもらえる やりがいを感じます

センター：女性消防団員の活動は、市民や地域に寄り添っている感じがします。

名倉さん：身近に感じてもらえるように「消防団だより」に、それぞれの団の紹介やできごとなどを取材して掲載するようにしています。火災報知器の確認で地域を回るときは、私たちが来るのを楽しみに待っていてくれる人もいますよ。

センター：どんなときにやりがいを感じますか。

名倉さん：説明を聞いて「よくわかりました。本当にありがとう」と感謝されたときですね。喜んでもらえるやりがいを感じます。学校の先生から、小学生のとき救命講習を受けた子が、消防署員になったと聞いたときはすごくうれしかったです。

生理用品や食べ物の備蓄は 普段から慣れているものを

センター：災害が起きたときのために、女性が備えておいた方が良いものを教えてください。

名倉さん：自分が使っている生理用品をストックしておくといいですよ。同じものが配給されるわけではないですから。簡易トイレも必要ですが、トイレトーパーも忘れずに多めに準備しておくとう安心です。非常食は値段が高めだし、特に子どもや高齢者は、慣れない物は食べにくいですから、好きな

ものや、いつも食べているものを切らさないように補充しておくといいと思います。

長期保存を考えると基本は缶詰ですね。最近は、冷たくても食べられる、レトルトのカレーやスープもあります。ラップは使い捨ての食器の代わりになるし、ペーパータオルは水に強いので便利です。健康を維持するために、歯ブラシと歯みがき粉も切らさないように気を付けたいですね。

災害が起きたら赤い自転車で 女性の声を聞いて回りたい

センター：納得することが多くて、とても参考になります。では、過去の災害で課題になった、役割分担の偏りについてはどうすれば良いと思いますか。

名倉さん：過去の災害では、避難所の責任者のほとんどが男性でした。こういった反省を生かして、責任者、炊き出し、保健など、何の係でも初めから担当者欄を男女2つにしておいてほしいと思います。

女性の性被害やDVも増加したので、こういうときこそ、暴力の防止や安全確保のために、女性もできることをしないとイケないですね。非常時だから誰にも話すことができない、相談ができないという状況にならないように、女性消防団員が受け止める役割を持って活動できたらと考えています。

センター：熊本地震では「できる人が、できることを、できる分だけする」という方針で避難所運営したところがあるそうです。同じ考えですね。災害時の対応として、計画されていることはありますか。

名倉さん：市内の避難所を赤い自転車で女性消防団員が2人1組で回る計画を立てています。コロナの影響で進んでいませんが、落ち着いたら担当者を決める予定です。制服が消防署員と似ているので、間違いされることがよくあるんですけど、私たちの活動はボランティア的なものなので予算は持っていないんです。でも、10年計画で何とかしたいです。

センター：これから、連携できることをぜひ探していきたいです。今日はありがとうございました。



一人ひとりが防災に関わる
ことが大切



※ただし、自宅避難が危険な場合は避難所へ

家族で確認しよう

女性と乳児の備蓄チェックシート

乳幼児がいるとき

- ふだん使っている粉ミルク、ベビーフード
- 好きなおやつなど
- 乳幼児用の飲みもの
- 湯沸かし器具・煮沸用の鍋や哺乳瓶の消毒液
- 授乳用ケープ
- 紙おむつ
- おしりふき・おむつ用のビニール袋
- 下着・着替え
- 絵本・おもちゃ
- タオル
- 防犯ブザーやホイッスル
- 保湿クリーム

女性が用意しておく 役に立つもの

- 生理用ナプキン（普段使っているもの）
- おりものシート
- サニタリーショーツ
- 下着
- 洗淨綿
- 中身が見えないゴミ袋
- 防犯ブザーやホイッスル

自分に必要なもの あったらいいもの

たとえば

- 薬：血圧・糖尿病
-
-
-
-
-
-

《女性消防団員を募集しています！》

八千代市在住の18歳以上の女性で、消防・防災救急救命に貢献したいという意欲のある人を募集しています。規律訓練を受け、AED講習会の指導員資格を取得していただけます。イベントで活動しているのを見かけたら気軽に声をかけてくださいね。大学生も募集中です。興味のある方は、八千代市消防本部消防総務課 TEL047(459)7802までご連絡ください。



男女共同参画だより やちよぺあ (No.46 令和4年早春号)

【発行】八千代市男女共同参画センター

電話：047-485-7088

メール：danjo@city.yachiyo.chiba.jp

所在地：八千代市八千代台南1-11-6

(八千代台東南公共センター4階)

▼八千代市ホームページ
男女共同参画センター

